

やめよ! 徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信
No.82 (2009.7.7)

事務局 TEL/FAX 0584-78-4119
大垣市田町1-20-1 近藤方

徳山ダム導水路事業は止まる! 止める!

5月15日の中日新聞朝刊は1面トップで以下のものを報じました。

©2009 中日新聞社

中

二

桑

原

2009年(平成21年)5月15日(金曜日)

©中日新聞社2009 (日刊)

名古屋市が導水路撤退

国(中部地整)・水資源機構(中部支社)はあわてふためきました。河村たかし氏が名古屋市長に当選した瞬間から、「この事態」は予測できたはずなのに—「危機管理能力」の欠如—。

名古屋市は「利水者」としてのみ木曾川水系連絡導水路(徳山ダム導水路)事業に参加しています。だからその単独意思で撤退できません(水資源機構法施行令「撤退ルール」)

そして(利水者としては)独り残る愛知県が利水分の負担を肩代わりできるはずもなく、国が「治水分」割合を多くして背負えるはずもありません(国の負担分—治水分—を増やせば、直轄負担金として岐阜・愛知・三重の3県の負担増にも繋がります。3県は財政状況からしてそれを受け入れるのは無理)。「国も3県1市も皆で一緒に」こんなムダ事業はやめれば良いのです。そして長良川に徳山ダムの水を流す本当のワケ(=長良川河口堰中流部取水)を諦め、長良川河口堰のゲートを開放すれば良いのです。

マスコミの報道合戦のおかげもあって、緊急ブックレットの出版ができました。(→4頁)

徳山ダム
河村市長方針
負担金
本年度「支払わぬ」通告



中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(26)18811

恒例: 徳山村キャンプ 8月22日(土)~23日(日)

詳細は3頁へ お申込み・お問合せは、事務局・近藤へ 0584-78-4119

第7回長良川市民学習会 「徳山ダム導水路はいらない」緊急出版講演会

税金の無駄づかい ~ 徳山ダム導水路はいらない ~

とき: 7月29日(水) 18:30~20:45

ところ: ハートフルスクエアG大研修室 (JR岐阜駅改札口から東方向へ棟続き)

講師 近藤ゆり子 「徳山ダム導水路はいらない」著者

(聞き手) 富樫幸一・長良川市民学習会副代表

主催: 「長良川に徳山ダムの水はいらない」市民学習会(代表 粕谷志郎)

参加費無料(要テキスト。詳細は4頁へ) 連絡先 武藤仁 090-1284-1298

愛知県は徳山ダム導水路事業から撤退せよ！ ～名古屋市長の撤退表明と愛知県住民訴訟提訴に寄せて～

5月15日に大々的に報じられた河村たかし名古屋市長の「導水路事業からの撤退表明」を熱烈に歓迎する。そして、河村市長がこうした決断をするにあたっての「理論的基礎」を、当会が運動として担った徳山ダム裁判を通して蓄積してきたことを誇らしく思う。

1999年3月、当会は、二つの徳山ダム裁判を提訴した。一つは水没する徳山村に土地の権利を持つ者(土地トラスト)が原告となって国の事業認定処分(強制収用の前提たる処分)を取り消すことを求めて国土交通大臣を訴えた「事業認定処分取消訴訟」(＝行政訴訟)であり、もう一つは「徳山ダム工業用水負担分の一般会計からの支出は地方財政法違反である(住民の利益に反する)」と岐阜県を訴えた「公金支出差止訴訟」(＝住民訴訟)であった。確かに、私たちは敗訴した。しかし、私たちは、この裁判を通して「いかに徳山ダムが要らないか」を明らかにしてきた。この成果が「今」に繋がっていることを確信している。

今般、6月11日、愛知県の住民90余名が、「愛知県は徳山ダム導水路事業(木曽川水系連絡導水路建設事業)にお金を出すな！」という公金支出差止訴訟(住民訴訟)を提訴する運びとなった。徳山ダム裁判をずっと支援して下さった方々が、今度は自ら原告として愛知県の住民訴訟を立ち上げる。徳山ダム裁判支援の感謝の気持ちを込めて、当会として熱い連帯のメールを送る。

この木曽川水系連絡導水路建設事業では、愛知県と名古屋市(前市長時代)が主導して、長良川河口堰取水との兼用施設(中流部取水)を画策してきた。その画策の痕跡(兼用施設への芽)が「長良川を通して木曽川に運ぶ下流施設」である。長良川を単なる水利用の具(用水路・貯水池)にして、川に流れる水をとことん収奪する構造を、私たちは許さない。「水源開発」のために徳山村をまるごと沈めてしまったことが、どんなにむごく愚かなことだったかを、今一度、下流都市住民は痛みをもって噛みしめなければならない。

私たちは徳山ダムの要らない水を「有効利用する」と称して、さらなる巨額の公金を注ぎ込み、長良川・木曽川の生態系を攪乱・破壊することを黙過できない。

河村たかし名古屋市長の表明を受け、愛知県も、要らないものは要らない、と腹を括るべきである。厳しい財政逼迫に直面している今、不要な事業に318億円もの公金を投入するのは、住民への背任行為に他ならない。名古屋市の撤退後になおこの導水路事業を進めようとするれば、愛知県はさらに100億円ほどの負担増を覚悟せねばならない。愛知県も導水路事業から撤退することを強く促したい。

愛知県が、自ら導水路事業に公金を投入しない、と早期に決断することで、11日に提訴する住民訴訟が、短期間で、住民側にとって勝利的に終結することを心から期待する。

徳山ダム導水路事業を中止し、豊かな海づくり大会に向けて、長良川河口堰のゲート開放を！

★ 09.5.15 長良川市民学習会 中部地整に公開質問状を提出

5月15日のバタバタの日に、「長良川の魚類の生息及び木曽川のヤマトシジミに関する公開質問状」を提出しました。「(公開質問状を)受け取るとは言ったけど回答するとは言っていない」との言いぐさで未だナシのツブテ。他方、ひたすら”肅々と”「環境レポート作成→本体工事」へと進もうとしています。6月26日、長良川市民学習会は、中部地整宛に「公開質問状を無視したま『環境レポート作成』を強引に進めるな」という抗議書を出しました。

長良川市民学習会HP <http://dousui.org/> 参照

★ 09.6.06「トーク&コンサート このままで、このままで流れよ長良川」

300名の参加を得て大成功をおさめました。帰りに受け取ったたくさんのアンケート用紙には、この企画での感動と長良川への熱い想いに溢れていました。

岐阜人の誰も（お上には基本的に楯突かない普通の人々）が、異口同音に言います、「長良川河口堰ができてから、長良川は変わってしまった」と。そして「長良川河口堰のゲートは本当に閉めておかねばならないのか？必要性が低いなら、せめて河口堰のゲートを開放してほしい」と。

長良川市民学習会HP <http://dousui.org/> 参照



★ 09.6.11「導水路はいらない！愛知の会」愛知県を提訴

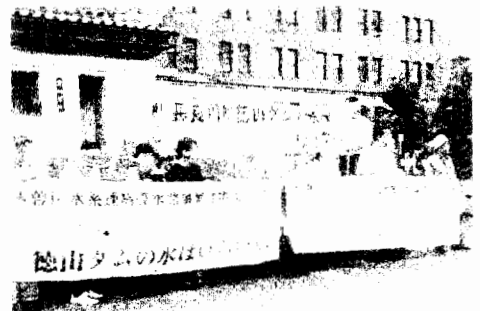
提訴日は、愛知県庁前で提訴行動。中部地整の前を通って名古屋地方裁判所までをデモ行進しました。

09.6.20 住民訴訟スタート集会

共同代表、弁護団長からの報告と提起の後、導水路事業の第一の目的にされてしまっている「ヤマトシジミ」について、山内克典・岐阜大名誉教授の基調講演がありました。山内先生は、国交省資料のあまりのデタラメさに、「いつか自分の頭がどうにかなったのか、と思った」そうです。シロウトから見ても低水準のデタラメが巨額の公共事業の「理由」にされていることが分かります。

導水路はいらない！愛知の会HP

<http://www.geocities.jp/dousuiroaichi/> 参照



恒例：徳山村キャンプ 8月22日(土)～23日(日)

「本格運用」後も、解決すべき問題を何ら解決されず、さらなる問題を発生させている徳山ダム。「最後にしないぞ！」とまた、恒例のキャンプを行います。

① 大雨が予想されるときは中止します。連絡体制がとれるようにしたいです。

② テント等、ご自分の分以外にもお持ちより頂けるとありがたいです。

22日(土) 13時 JR大垣駅北口集合出発、23日(日)の午後の早め帰着。

参加費：3000円～3500円程度(子供は無料)。食事・飲み物は準備します。

参加者各自が用意するもの：寝袋 or 毛布(できるだけ)。長袖シャツ。雨具など。

my 箸、my コップ、my 皿。

お申込み・お問合せは、事務局・近藤へ 0584-78-4119 Email: k-yuriko@octn.jp

ブックレット緊急出版！

－7月15日発売－

「徳山ダム導水路はいらない！」

徳山ダム 導水路は いらない！

徳山ダム導水路はいらない！

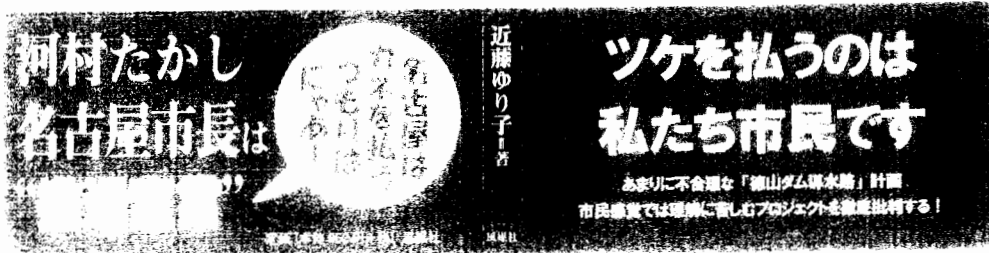
近藤ゆり子 著

風媒社／1000円（税込み）

長良川河口堰・徳山ダムと続く「ムダ公共事業」の流れと構造をまとめました。

当会ならではの「最新情報」「裏(?)情報」も盛り込みました。

ご一読頂けると幸いです。



7月29日の第7回長良川市民学習会では、テキストとして使用します。当日会場でもご購入頂けます。書店での入手も難しい場合は、徳山ダム建設中止を求める会・事務局にお申し込み下さい。送料込み1200円。(お申し込みは、はがき、FAX、メール等お送り先のお名前・ご住所・お電話番号が記録に残る形をお願いします。)

河村たかし・名古屋市長は「公開討論会などを経て夏を目処に、名古屋市としての姿勢をはっきり決める」と言っています。「ムダで環境を破壊する徳山ダム導水路はいらない！」という世論を大きく盛り上げましょう。

- ◆ 徳山ダム導水路住民訴訟（愛知）第1回口頭弁論にお集まり下さい。
愛知県の支出を止め、徳山ダム導水路事業の息の根を止めましょう。
7月29日（水） 14：00～ 名古屋地方裁判所（大きい法廷です）

事態は急展開しています。当会も徳山ダム導水路を中止させる運動に積極的に参加しています。これまで会費・カンパをお寄せ下さった皆様のご厚意に感謝するとともに、引き続き、会費・カンパをお願いいたします。

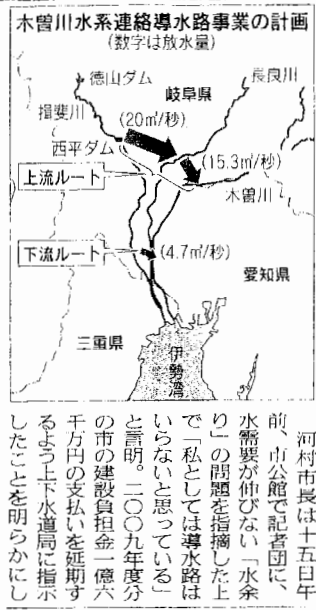
「やめよ！徳山ダム」 徳山ダム建設中止を求める会 代表：上田武夫
公式HP <http://www.tokuyamadam-chushi.net> 事務局長ブログ <http://tokuyamad.exblog.jp/>
編集責任：近藤ゆり子 事務局 〒503-0875 大垣市田町1-20-1
TEL/FAX 0584-78-4119 Email: k-yuriko@octn.jp
郵便振替：00800-7-31632 年会費 2000円

名古屋市、撤退を検討

河村市長「水余り」指摘

名古屋市の河村たかし市長は十五日、徳山ダム（岐阜県指斐川町）の水を木曾川や長良川に流す導水路事業について、撤退を検討する意向を表明した。二十五日に最初の期日を迎える建設負担金の支払いを延期することを事業主体の独立行政法人水資源機構に伝えた。導水路建設は国と中部三県、名古屋市の共同負担で合意しており、今後の調整は難航必至だ。

建設負担金支払い延期



河村市長は十五日午前、市公館で記者団に、水資源機構が「水余り」の問題を指摘した上で「私としては導水路はいいな」と思っている」と言明。二〇〇九年度分の市の建設負担金一億六千万円の支払いを延期するよう上下水道局に指示したことを明らかにした。

日本経済新聞

09・05・15
 (河川課)と話した。三重県の谷崎義治、地資源室長は「驚いている。対応を考えたいが、現在、三重県は十三億一千万円を負担している。これが増えるのであれば困る」と話している。水資源機構ダム事業部は「事業関係を確認中で、明確に回答できない」とした。

反対の市民団体 国に公開質問状

木曾川水系連絡導水路計画に反対する市民団体「長良川に徳山ダムの水はいらない」(粕谷志郎代表)が十五日、岐阜市内のホテルで、国土交通省に公開質問状を提出した。渇水時に必要な流量の基準として、ヤマトシジミの生存に必要な指標について、その決め方や指標点を質問している。あわせて「河村たかし名古屋市長の発言を高く評価する」とした声明も手渡した。

09・05・16 朝日新聞

河村市長と協議へ 撤退には反対

名古屋市の河村たかし市長が十五日、徳山ダムの水を木曾川と長良川に引く木曾川水系連絡導水路事業を再検討する方針を示したことを受け、共同で事業を進める愛知、岐阜、三重県の知事と、河村市長が対応を協議する」とが決まると、3知事とも、負担増につながら名古屋市単独の撤退には反対して、事業の中止にも現時点では否定的な見方を示している。導水路は総事業費890億円。国が408億円を負担するほか、治水、利水の実益者となる3県と名古屋市が費用

名古屋市も賛同して進めてきたと、一事は事務レベルで仕事、よくよく協議しなければ物事は進まない」と計画案を更には否定的だ。岐阜県古田孝知事も協議の要を訴えている。河村市長は「合意したプランを再検討するならば、しっかりとした手順を踏むことが必要」と慎重な姿勢だ。三重県の野呂昭彦知事は「名古屋市の撤退で三重県民の負担が増えることは許されないと、直しを求める意見が出てい

か、国が四百八億円、愛知県が三百十八億円、岐阜県が十三億円をまかなう計画となっており、名古屋市の導水路に供給する徳山ダムの総事業費のうち四百二億円を負担する予定だが、これによって市長は「ダムは造ってしまっており、無責任になるので払わざるを得ない」と説明。年間一億三千万円のダムの維持管理費に関しては「払いたくないが、払わなければならない」と述べた。

市民団体「事業ごと中止を」

名古屋市の河村市長の導水路事業凍結表明を受け、長年、木曾川水系の過剰な水資源開発を批判してきた市民団体は、名古屋市の撤退に賛同し、事業の凍結を求めたい」と話し、利水面では無駄な公共事業を上塗りするだけだ。河村市長の決断に、市民が記者団に撤退の方針を正式表明するの海水時に周辺の自治十億円減り、八百七十億円、岐阜県が二百八十億円、三重県が三十一億円、市試算に基づけば、市の撤退後も事業を継続する場合、二百億円を国や自治体が負担するのかが焦点となる。

住民グループなど歓迎

木曾川水系連絡導水路事業に反対する住民の同会設立総会に突然クループ「導水路は、現れ、関係者の話を聞かない」「導水路は、河村市長の撤退方針表明と徳山ダムに反対の立場を、大いに結構な話」と歓迎した。

も事業の必要性について再考を迫られるは「愛知の会」は三月、同事業が負担する費用は三百十億円に達していることを明らかにし、市に請求したが、県監査委員は「市に請求を求め、同会は公益支出の請求を求め、河村市長の方針が伝

も検討するところ。導水路は徳山ダムがある指斐川と愛知県や名古屋市の取水口がある木曾川を結ぶ四十三キロの地下トンネル。木曾川の水を対策や都市用水の取水が目的で、二〇一五年の完成を予定している。総事業費八百九十億円のうち、名古屋市は百三十一億円を負担する。河村市長は「また市で撤退を決めたわけじゃない。市長から話を聞き直したい」と話した。市が徳山ダムの木曾川水系連絡導水路事業から撤退した場合、治水、利水の需要が頭打ちに

反対派「賢明」「当然」

09.05.15 中日新聞 (夕)

長良川への流出変更も 事業監理会 環境に配慮、検討

第二河木曾川水系連などから長良川に流さ 今後の進め方、環境へ
 導水路事業監理検討 すそのまま木曾川へ流 の影響検討の状況など
 会が七日、名古屋市中 す案も、環境リポートを確認した。
 区の水資源機構中部支 作成する段階で検討 この中で、徳山ダム
 て通常時、徳山ダムの 検討会には国、岐阜、 曾川までの上流導水路
 水を木曾川に送る途 愛知、三重県、名古屋(約四十二)について、
 中、長良川に流すとし 市の行政担当者らが出 計画では毎秒四の
 ていた計画を、環境面 席、担当者が同事業の のうち、同(七)を 対する懸念が出た

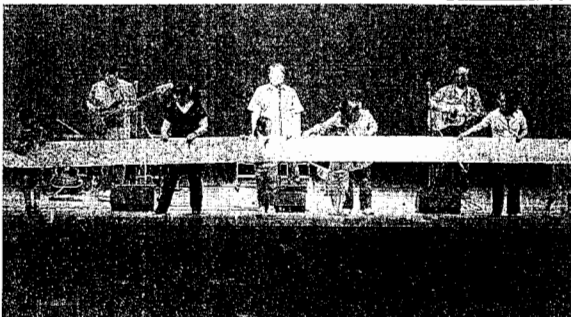
途中の長良川で流す計 め検討することにした
 画だが、四ノをそのま という。また、長良川
 ま木曾川まで流し、長 に水を流さなければ、
 良川に流す場合は異常 ポンプの電気代など年
 濁水時とする案につい 間千三百万円のコスト
 減となることから、コ
 スト面からも検討す
 る。
 同僚業では、羽島市
 南部の長良川から木曾
 川に下流導水路約一
 を計画しているが、全
 体計画に変更はないと
 している。

写真の中の目が、笑ってい た。一仕事終えた後のだろ
 う。山積みにした山菜を前
 に、どっかり腰を下ろしてい
 る。山菜は「根曲がり竹」と
 呼ぶらしい。大変な量だが、
 この後どうやって持ち帰った
 のだろうか。
 二十五日発売された写真家
 大西鶴夫さんのグラフィック
 集、徳山ダム建設に伴い廃村
 となった旧徳山村に、
 水没まで通い続けた村
 人一家の記録が収めら
 れている。
 本当に徳山を愛していた
 人だっけだ。顔を上げる
 と、写真を見つめる大西さん
 の目が笑っていた。目標を落
 とし、ベリジをめぐる。しど
 めたイノシシを手に、男たち
 が雪の中を歩いていた。
 導水路を巡り今再び住目を
 集める徳山ダム。写真の中の
 笑顔は利水や治水の名目ぞ
 の生き方を奪った私た
 ちに、何を訴えていた
 のだろう。(岡本太)

09-05-28 中日新聞

長良川への 思い熱く

長良川をテーマにし
 たトーク&コンサート
 二のままで、このま
 まで流れよ長良川(長
 良川市民学芸会主催)
 が6日、岐阜市金町の
 市文化センターで開か



長良川をテーマに熱唱する笠木透さんら(岐阜市金町、市文化センター)

岐阜市で市民団体 座談会とコンサート

た。
 同学習会は、徳山ダムの水を木曾川などに流
 れた。
 (ム)指導部指導員川町
 から加茂郡坂祝町の木 なるため、住民や漁業関
 係者から意見聴取する
 段階で、長良川イメ
 ーシブ悪化、環境変化に
 対する懸念が出た

00人の聴衆が訪れ、ま ぎら河川
 センター事務局長さん
 トークの部では、岐 本の平井久美子さん
 の地域と長良川との
 結び付きを語った。
 コンサートの部で
 豊那市出身の笠木
 透さん率いるフォーク
 楽隊が、参加者と同
 とフォート・エゴロジス
 透さん率いるフォーク
 楽隊を考へておらおうと
 良川河口堰(守き)の
 聖一が出演。長良川を
 開いた。会場には約3
 反対運動を振り返っ
 テーマに熱唱した。

への出席に了解を得
 た、とされている。論
 点ははっきりしてい
 る。国土交通省や農林
 水産省とも論争し、最
 後は政治的な判断にな
 るのでは、と話した。
 徳山ダムへ岐阜県環
 水産省とも論争し、最
 後に政治的な判断にな
 るのでは、と話した。
 河村市長は先月中
 旬、撤退方針を表明。
 市としての決定
 は議者や市民の声を聞
 いた後に出したこと
 としている。名古屋城本
 丸御殿の復元でも、
 十四日に、その是非を
 一時留す直接見解を
 聞き、双方から討論を
 している。

09.06.07 岐阜新聞

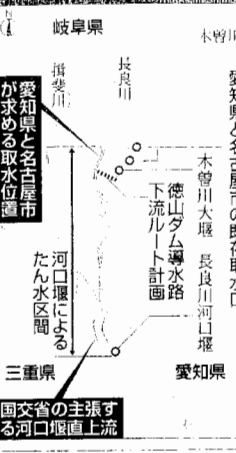
09.06.09 中日新聞

長良川取水「河口堰近く」「中流で」

長良川河口堰の水の利用をめぐる、国土交通省が、公式
 の見解と矛盾する別の覚書を、愛知県と名古屋市中に出して
 いたことがわかった。県と市が構想する上水道の取水口の
 建設位置について、覚書は県と市が希望する長良川中流域
 での建設への協力を約束しているが、国土交通省の見解は
 「中流域の環境に悪影響が出る恐れがあり、取水口は河口
 堰近くが望ましい」。表と裏を使い分けるような国土交通省の
 「二枚舌」が露呈した形だ。(伊藤智章)

ぐ下流に既存の取水口があ
 り、すでに整備済みの送水管
 で尾張地域や名古屋市内に供
 給することができるため、経
 費を抑えることができる。一
 方、河口堰付近で取水するこ
 とは、送水管を新設する必要
 が出てくるのに加え、供給先
 が上流側になるため、ポンプ
 で送水するためのコストが高
 い。
 国土交通省は「中流域で取水す
 ると、水が減った分、長良川

の流速が落ち、アユの生態や
 水質に影響する恐れなどがあ
 る」として、旧建設省時代か
 ら「(河口)堰の直上流が望
 ましい」と、公式見解を示し
 ていた。岐阜県も環境悪化を
 懸念し、長良川中流域での取
 水に反対している。
 今回明らかになった覚書な
 どの文書は、徳山ダム建設
 中止を求める会・事務局長の
 近藤ゆり子さんの請求で、国
 交省が開示した。
 取水口の建設位置について
 かかっているのは、①河口堰
 直前直前の87年、旧中部地建
 局長名の「取水位置について
 は、関係機関等の調整の上、
 貴意に沿うよう措置する」と
 する知事、市長あての二つの
 覚書②河口堰完成直前の93
 年、地建部長名の「要望に沿
 うよう、調整を図る」とする
 県部長あて回答書③「山々
 の建設事業費を9.6億円増
 額した04年、「既存の取水・
 導水施設が有効に利用できる
 よう協力する」とす地建局
 部長と市局長や県部長連名の
 確認事項文書。
 87、93年文書も「本県の希
 望する位置」(県)などです



愛知県や名古屋市の構想 いう内容。現在、検討中の徳
 は、河口堰約20上流付近の 山々導水路の下流ルート
 中流域に取水口を建設。県が 増設し、兼用施設化するこ
 毎秒4.12、市は同2.1を 想定している。
 取水し、隣の木曾川に流すこ 木曾川には、この場所のす
 愛知県と名古屋市の既存取水口
 木曾川大堰 長良川河口堰
 徳山ダム導水路
 下流ルート計画
 愛知県と名古屋市の主張する河口堰直上流
 河川堰による
 たん水区域
 三重県

とまで明記している
 一方、国交省も安易に中流
 域での取水を認めるわけには
 いかなかった。「環境悪化」
 の引き金を引きたくないから
 だ。それでも過去の経緯を無
 視せず、覚書で切り抜けて
 きた、ということだ。
 1500億円事業(国直轄
 分を除く)の河口堰で、現時
 点で使われている水は22.5
 のうち3.6だけ、3.6
 00億円事業の徳山ダムはせ
 づ、県や市と同様、国交省に
 ともどもこの状態は好ましく
 ない。
 名古屋市の河村たかし市長
 が「水余り問題に導水路がい
 るのか」と問題提起したら、
 各県や国交省は猛反発してい
 る。世間の関心が薄れてきた
 とことで覚悟を生かした、この
 導水路を建設して徳山ダムの
 水ばかりか、河口堰の水も取
 れるよか、という長年
 の構想が否定されてしまっか
 らではないか。
 だが、いから「喝水対策」
 を強調しようと、こんなやり
 方で、住民の支持は得られな
 い。過去のいきさつすべて
 公開することが、議論の前提

水余りで強行のツケ

《解説》国土交通省の「二
 枚舌」は、水余りなのに「利
 水が必要」と言い張って長良
 川河口堰建設を強行したつげ
 だ。
 最初の覚書を出した87年
 は、水の需要が見込めなかつ
 た三重県が毎秒4.1の権利
 (岩屋ダム分を含む)を返上
 したのに対し、また財政に余
 力があった愛知県と名古屋
 が肩代わりし、ようやく河口